

SPINE20 2023 参加報告書

日本脊椎脊髄病学会 国際委員会 委員 加藤壯（東京大学）
日本脊椎脊髄病学会 国際委員会 委員 玉井孝司（大阪公立大学）

この報告書は、2023年8月にインド・ニューデリーで開催された SPINE20 2023 summit への参加に関するものです。SPINE20 は、脊椎疾患の重要性を G20 各国政府や保険関連局に対して喚起する目的で、2019年に EUROSPINE, North American Spine Society, German Spine Society, Saudi Spine Society により設立された非営利団体です。2022年より日本脊椎脊髄病学会（以下、JSSR）もその活動に参画しております。

【会議の概要】

会議名：SPINE20 2023 summit

日時：2023年8月10日～11日

場所：ニューデリー、インド

テーマ：One Earth, One Family, One Future WITHOUT Spine DISABILITY

Chair：Harvinder S. Chhabra (Association of Spine Surgeons of India)

【参加活動】

本年度は、JSSR から国際委員会委員の加藤・玉井が現地で参加、伊東学担当理事がオンラインで Summit へ参加致しました。伊東理事は SPINE20 へ参画する団体の評価・管理などを担当する Partnership Advisory Board の Chair を務めており、Summit の冒頭でも「Partner Societies of SPINE20」という演題で講演をされました（写真1）。加藤はメインシンポジウムである「Implementation of Recommendations」の Chair として90分のシンポジウムを指揮致しました（写真2）。玉井は会全体の Co-Chair として会運営をサポートしつつ、Recommendations 作成委員の委員長として Recommendation 2023 の採択を指揮致しました。また、今年度はインド保健・家庭福祉省の依頼を受けて、National Spine Care Program の必要性を各参加団体の代表者で論じました。JSSR からは玉井が議論へ参画し、現地メディアを前に脊椎疾患の重要性を喚起致しました（写真3）。

【JSSR としての役割と貢献】

SPINE20 は2020年より活動を始めており、毎年発表する Recommendation を通じて「脊椎疾患の重要性を G20 各国政府や保険関連局に対して喚起する事」を目的としています。これは、一般的な学会活動などとは一線を画するものであり、かなりユニークな団体であります（参加された他国の先生が SPINE20 を「政治家に対するロビー活動を行うフォーマット」と表現しておりましたが、その側面は強いと感じます）。そのため、その活動の成否を

正しく評価することは難しいと感じております。しかし、今年度の SPINE20 summit は多くの点で、以前よりも大きな進捗があったように感じました。具体的には①インド保健・家庭福祉省の依頼を受けて National Spine Care Program の必要性を論じた点（日本で言うところの「健康日本 21」に似たインド国内での総合的な施策、と理解しております）、② Medtronic の副社長などからもご講演を頂き、患者やインダストリーも参画した点、③現地の政治家や G20 シェルパを巻き込んで会を開催できた点、④現地のマスコミなど多く招きインド国内の主要メディアで SPINE20 が報道された点、等が挙げられます。①はすぐに結果が出ない（インド国内で脊椎疾患の予防・治療に関連する法整備がされるのには時間がかかる）ですが、議論をトリガー出来たことも十分な結果だと感じており、今後 SPINE20 の進むべき方向を明示した会であったと感じます。その中で、JSSR は伊東理事が SPINE20 の拡大を指揮する非常に重要な部署の Chair として精力的に脊椎関連団体を勧誘・評価をして頂いております。2023 年 8 月 1 日の段階で 35 の脊椎関連組織が SPINE20 への参加を表明しておりますが、それを JSSR からの代表者が指揮している構図は、JSSR のプレゼンス向上に強く寄与していると考えます。また、玉井も SPINE20 運営のコアメンバーとして認識されており Recommendation 作成委員の委員長を担っている点、加藤もサミットのメインシンポジウムでの座長を行う点などからも、SPINE20 内での JSSR の貢献が評価されている事を示していると感じます。

【SPINE20 2023 summit に参画して感じたこと】

上述の通り、今年度の SPINE20 2023 summit はある程度の成功を得ていると感じます。一方で、現状ではインド国内での脊椎治療プログラム設立を公的に喚起した、のみであります。これらの知見を次年度 G20 開催国であるブラジルなどへも応用することが可能となるのか、WHO など国際機関にも認知されるような活動が可能となるか、などが今後の SPINE20 が抱える課題であると考えます。しかし、SPINE20 へ参加した一個人としては、他国の脊椎関連医師などと、普段は持てない密な関係性を持つことも可能となりました（写真 4）。このような関係性も最終的には JSSR へ還元出来るのではないかと考えております。この度はこのような貴重な機会を頂戴し誠に有難うございました。JSSR のさらなる発展へ向け、微力ながら努めて参る所存です。引き続きご指導を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

写真 1：プログラム内の Partnership Advisory Board 紹介ページ



写真 2：「Implementation of Recommendations」にて座長を行う加藤。座長席には共に Chhabra 先生と、Rajasekaran 先生がおられます。また、スクリーンにはインド政府の政策シンクタンクの副責任者であり、有力なインド政府の政治家である Amitabh Kant 先生がライブ講演されている際の映像が表示されております。



写真3:脊椎外科医のみならず患者会などからも代表者を招き「National Spine Care Program」の必要性を行いました。JSSR 代表として玉井が現地のメディアなどへ脊椎疾患の重要性などを説明致しました。



写真4: Summit 中のディナー時の写真。右から、Lisa Roberts (EUROSPINE の Board member)、玉井、Harvinder Chhabra (Association of Spine Surgeons of India の Past president)、Chhabra 先生の奥様、Pierre Côté (WHO Rehabilitation Alliance のメンバー)、Marco Campello (NASS)、Giuseppe Costanzo(イタリア脊椎外科の Past president)、加藤。

